

「やるしかない」背景に快進撃

バブルに踊らさず

日本全体がバブルに沸いていた90年前後。アート科学社長の佐藤栄作は真夜中の日立港に腰を下ろし、漆黒の海へ釣り糸を垂らしていた。当時の馬鹿騒ぎには目もくれず、朝7時から夜中の3時まで働き続けるという過酷な日々を送っていた佐藤にとつて、浮きを浮かべる2時間が唯一、膨大な情報であふれかえった頭を整理し、気分をリフレッシュさせる時だった。

アート科学は82年に創業した当初、理化学製品を専門に扱う小さな商社だった。佐藤が入社した90年の時点で、社員は佐藤を含めわずか3人。年商6000万円(当時)の小さな会社を、07年、佐藤は社員15人で年商10億円を稼ぎ出す会社へと変ぼうさせた。

● プライドの経営

少数精鋭で急成長



「仕事は厳しく、日々楽しく」をモットーにしている佐藤社長

「仕事を絶対に投げない」という信念と自らが置かれた状況は、バブル期の高揚した空気に浮足立つこともなく、佐藤を仕事に没頭させた。「当時は経営者ではなかったし、バブルとかあまり分からなかったよ」と当時を振り返って笑う。

「商工会(早期景気は、全産業(景気動向・0とたり)0・8改月ぶりの改引き続き。製造、引きの3業建設業、卸迷、官民工入れコスト採算悪化、などによるを訴える声」としている

勝つ

アート科学

理念結実 「プライドを持って働き、プライドの持てる成果を生み出せ」。そんな理念

だった。佐藤自身も幼少のころから海が好きで、将来は漁師になると思っていた。だが、佐藤が高校1年生の時に父親が他界し、一家は漁業を廃業。ここから佐藤の人生は少しずつ変わり

始めた。高校を卒業してからは、病気がちな母親、祖母を含めた一家の生活が佐藤の両肩にのしかかった。

経験が出発点 図面の読み方や設計も独学で会得した。納品などの作業を通じ、顧客との接し方も覚えた。佐藤は「仕事の厳しさを知った。この時の経験は出発点であり、す

▽社長 佐藤栄作氏▽所在地 茨城県東海村村松字平原3129の40、029・270・5501▽資本金 1000万円▽売上高 110億円(07年7月期)▽従業員 15人▽URL www.artscience.co.jp/

へら絞りでピアグラス

北嶋絞製作所(専務)が販社設立

職人の技、日用品で普及

け成形する技術で、職人技を要求される。北嶋絞製作所は航空機向けやパラボラアンテナ向け、建築用装飾金物向けなどに部品を製作している。北嶋貴弘氏は約15年間、同じく「貸し出しに積極的」または「やや積極的」とする回答は、大手銀行が合計68・1%、地銀・第一地銀が合計64・5%、信用金庫・信用組合が合計69・8%、政府系が合計76・0%で、金融機関全体としては合計69・8%だった。

金融機関の融資に好感

中小企業団体など2・3以上

金融庁調査

中小企業団体や商工会 6・8割に上っている

▽市民・サンライバー、会社として中国企業日本初とい運動防止。吐息に。大量のアルとエンきなくなるに売り込め代理店の開区、横田政4・814

